

H5N1プレパンデミックワクチンの 備蓄方針について

健康局結核感染症課
新型インフルエンザ対策推進室

H5N1プレパンデミックワクチンの備蓄の方向性

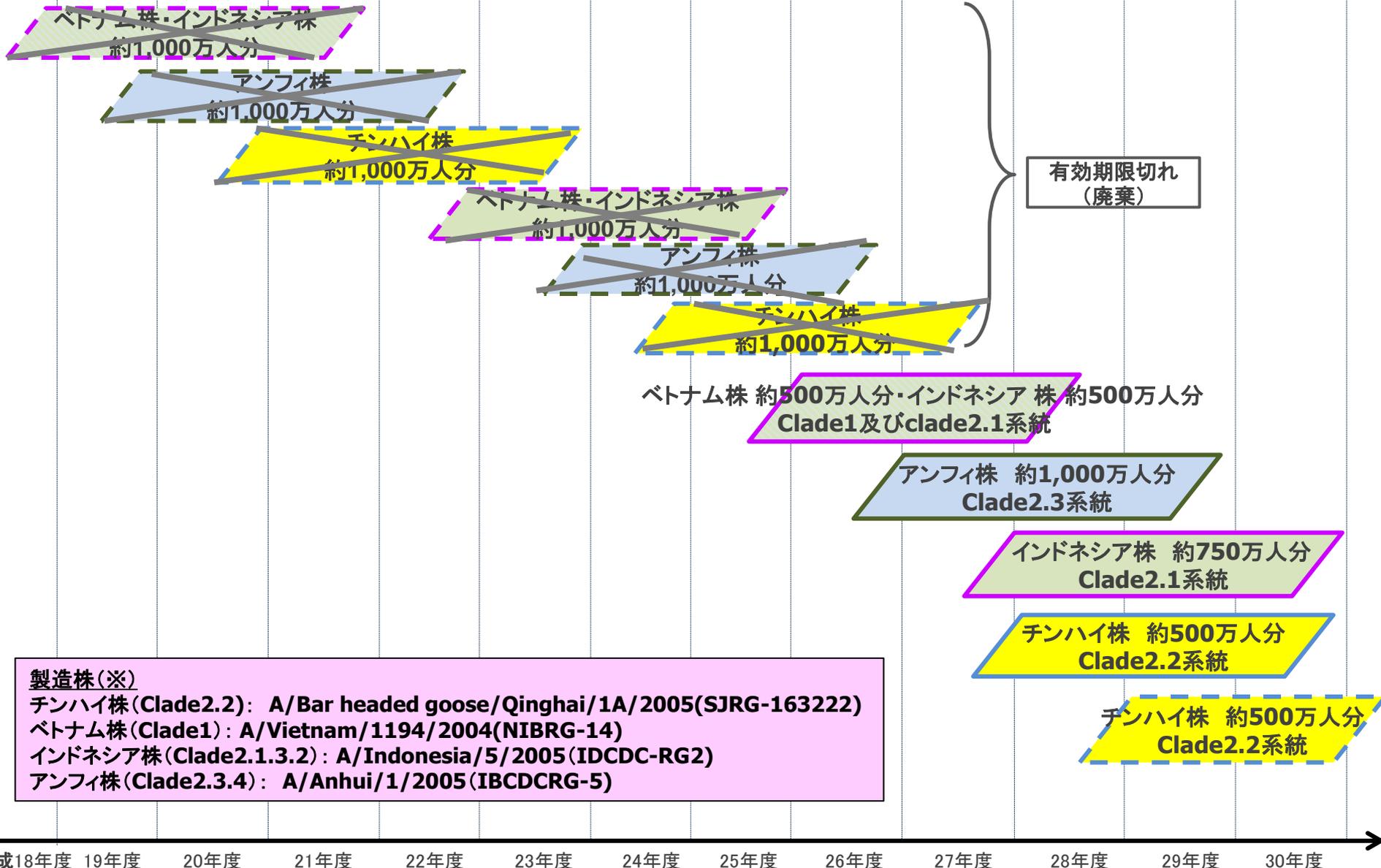
新型インフルエンザ等対策政府行動計画（平成25年6月閣議決定）

パンデミックワクチンの開発・製造には発生後の一定の時間がかかるため、それまでの間の対応として、医療従事者や国民生活及び国民経済の安定に寄与する業務に従事する者等に対し、感染対策の一つとして、プレパンデミックワクチンの接種を行えるよう、その原液の製造・備蓄（一部製剤化）を進める。

予防接種に関するガイドライン（平成25年6月 関係省庁対策会議決定）

- ウイルスの遺伝子構造の変異等に伴い、新しい分離ウイルス株の入手状況に応じてワクチン製造用候補株の見直しを検討し、その結果に即して製造を行う。
- 新型インフルエンザ発生後、最も有効性が期待されるウイルス株を選択。その際、流行している新型インフルエンザウイルスと、以前にプレパンデミックワクチンを接種した者の保存血清から交差免疫性を検討する。

H5N1プレパンデミックワクチン備蓄の状況



日本国内で用いられているインフルエンザワクチンの比較

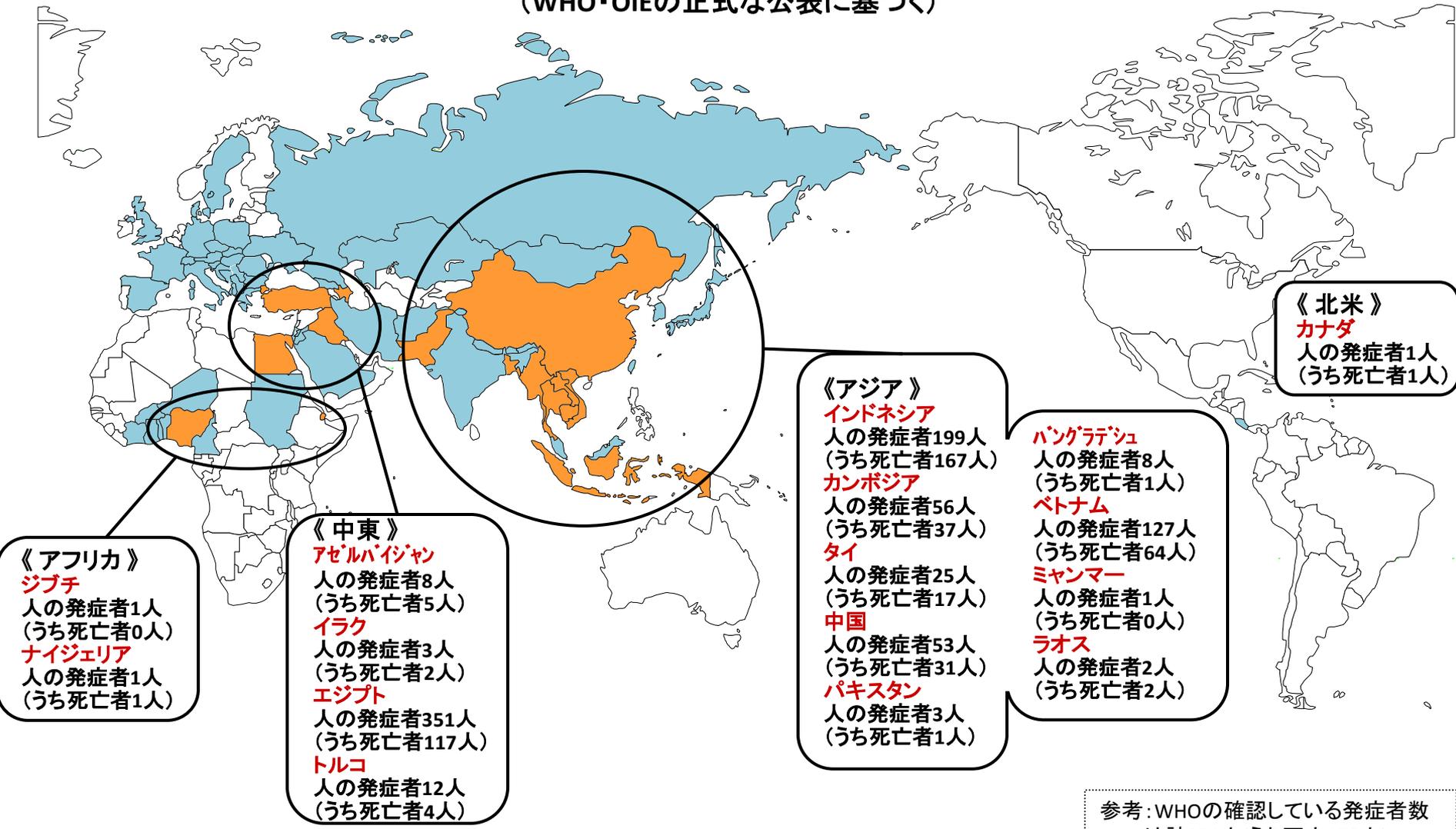
	インフルエンザ HAワクチン	沈降インフルエン ザワクチン	細胞培養インフルエンザワクチン		
品目	インフルエンザHA ワクチン	沈降インフルエンザ ワクチンH5N1	細胞培養インフルエ ンザワクチン (H5N1、プロトタイプ)	乳濁細胞培養インフ ルエンザHAワクチン (H5N1、プロトタイプ)	沈降細胞培養インフ ルエンザワクチン (H5N1)
製造販売業者	北里、化血研、阪 大微研会、デンカ 生研	北里、化血研、阪大 微研会、デンカ生研	武田薬品	化血研	北里
製造方法	鶏卵培養	鶏卵培養	細胞培養	細胞培養	細胞培養
ワクチン形態	不活化スプリット	不活化全粒子	不活化全粒子	不活化スプリット	不活化全粒子
アジュバント	なし	水酸化アルミニウム	なし	AS03	水酸化アルミニウム
HA含有量	15 μ g/0.5ml	15 μ g/0.5ml	7.5 μ g/0.5ml	3.75 μ g/0.5ml	30 μ g/1ml、 60 μ g/1ml
バイアルの規格	1mlバイアル (2回分量を含有) 0.5mlシリンジ (1回分量を含有)	10mlバイアル (18回分量を含有)	1mlバイアル (2回分量を含有) ただし、最小包装単位は2 バイアル=4回分	抗原液(2.5ml)とア ジュバント(2.5ml)が1 包装 (抗原液とアジュバント を混合した5mlで10回分 量を含有)	9 mlバイアル (9回分量を含有)
成人1回あたり の接種量・方法	0.5ml 皮下注	0.5ml 皮下注または筋注	0.5ml 皮下注または筋注	0.5ml 筋注	1ml 筋注
使用期限	1年	3年(原液)	3年(原液)	3年(原液)	1年(原液)

(平成28年5月20日現在)

(略語) 北里(北里第一三共ワクチン株式会社)、化血研(一般財団法人化学及血清療法研究所)、
阪大微研会(一般財団法人阪大微生物病研究会)、デンカ生研(デンカ生研株式会社)、武田薬品(武田薬品工業株式会社)

鳥インフルエンザ(H5N1)発生国及び人での確定症例(2003年11月以降)

(WHO・OIEの正式な公表に基づく)



《アフリカ》
ジブチ
 人の発症者1人
 (うち死亡者0人)
ナイジェリア
 人の発症者1人
 (うち死亡者1人)

《中東》
アゼルバイジャン
 人の発症者8人
 (うち死亡者5人)
イラク
 人の発症者3人
 (うち死亡者2人)
エジプト
 人の発症者351人
 (うち死亡者117人)
トルコ
 人の発症者12人
 (うち死亡者4人)

《アジア》
インドネシア
 人の発症者199人
 (うち死亡者167人)
カンボジア
 人の発症者56人
 (うち死亡者37人)
タイ
 人の発症者25人
 (うち死亡者17人)
中国
 人の発症者53人
 (うち死亡者31人)
パキスタン
 人の発症者3人
 (うち死亡者1人)

バングラデシュ
 人の発症者8人
 (うち死亡者1人)
ベトナム
 人の発症者127人
 (うち死亡者64人)
ミャンマー
 人の発症者1人
 (うち死亡者0人)
ラオス
 人の発症者2人
 (うち死亡者2人)

《北米》
カナダ
 人の発症者1人
 (うち死亡者1人)

参考:WHOの確認している発症者数は計851人(うち死亡450人)

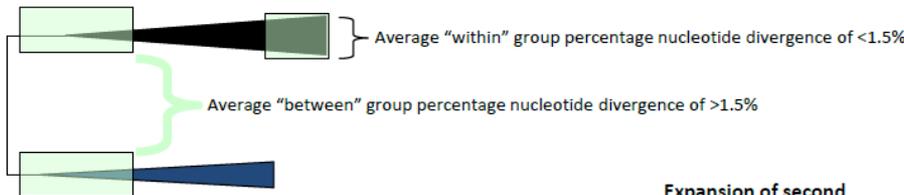
■ : 家きん等での高病原性鳥インフルエンザH5N1が認められた国
 ■ : 人でのH5N1発症が認められた国

2016年7月12日現在

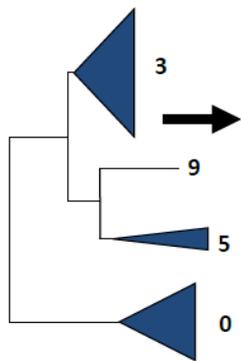
厚生労働省健康局結核感染症課作成

鳥インフルエンザ(H5)亜型のHA遺伝子系統樹(概念図)

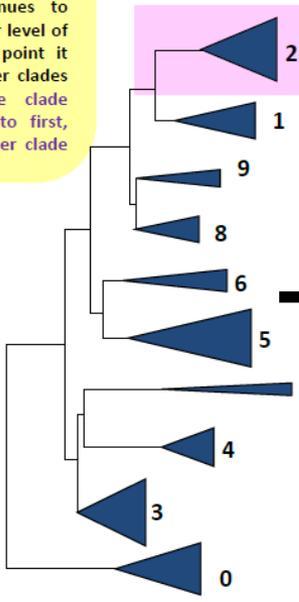
Evolution of the Asian H5 Hemagglutinin



When discrete monophyletic groups begin to appear within a specific clade and those groups meet the nucleotide divergence criteria (as well as having bootstrap values >60), they are split into second order clades (but still considered part of the original first order clade). As a second order clade continues to evolve it may reach a similar level of genetic diversity at which point it may be split into third order clades and so on. The same clade designation criteria apply to first, second, and any higher order clade designations.

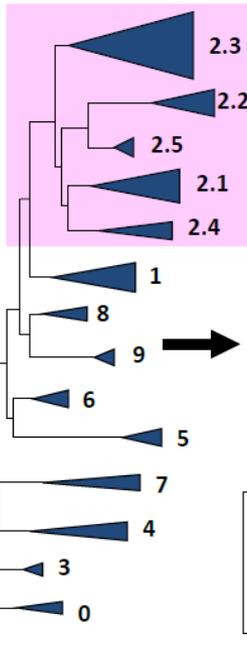


0.002
1996-2001



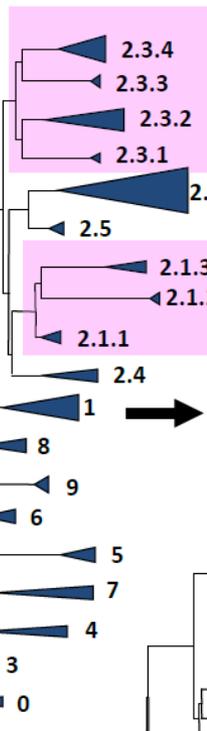
0.005
1996-2004

Expansion of clade 2 into five second order clades



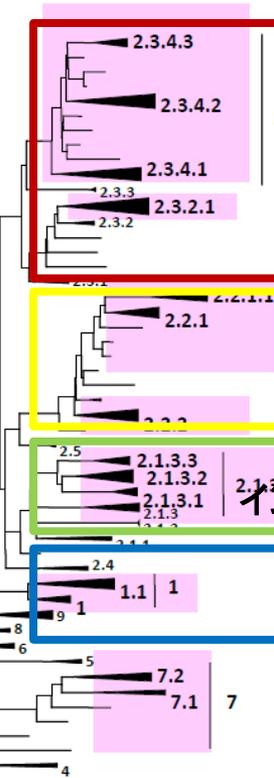
0.005
1996-2005

Expansion of second order clades into additional third order clades



0.005
1996-2008

Expansion of first, second and third order clades into additional second, third and fourth order clades



0.005
1996-2011

過去に人で感染が発生した
主な地域

クレード2.3
中国等で発生

クレード2.2
エジプト等で発生

クレード2.1
インドネシア等で発生

クレード1
ベトナム等で発生